

わたしたちの声を聞いてください!

## 「中国の恋愛事情」

崔 文玉

日本に来て、よく聞くのは「中国の男性は優しい、女性は気が強い」ということ。しかし、実はそうでもありません。「日本の男性はみんな忍者、女性は着物を着ている大和撫子」と外国人が考えるように、ただのイメージに過ぎないと思います。

中国の男性は女性を大事にし、よく尽くすと言われますが、それは人それぞれ、日本人でも中国人でも、優しい人は優しいし、冷たい人は冷たいと思います。ちなみに私の夫は日本人ですが、とても優しいです。中国の男性は自分の結婚相手を選ぶ時、まず学歴が自分と同じか低いかを気にします。高い人はほとんど選ばせません。たぶん男のプライドのせいかな。高学歴女性は結婚までの道のりが中国では険しいのです。二番目は、大和撫子のようなよく男の面倒を見てくれる女性が中国では人気です。外国人の女性のなかでは日本人女性が中国の男性に一番人気です。結局自分を立ててくれる女性が何処に行っても大人気になるのです。最後はやっぱり綺麗で、可愛い子が好きですね。これもどこの国に行っても変わらないですね。

中国の女性は日本の女性と比べると気が強いかもしれません。それは単なる性格の問題ではなく、中国語の話し方や、言語の特徴に関係があると思います。中国人は話している時、声が大きく喧嘩に聞こえます。そしてアクセントが強い言語のため、少々な事でも気が強いと感じられるのでしょう。けっして中国の女性がみんな気が強いというわけではありません。中国の女性には残念ながら日本人男性が一番人気がないです。中国では家事の分担は当たり前で、男でも料理、掃除、洗濯などこなせる人がモテます。男尊女卑の考えを持っている日本の男性が中国の女性と付き合うのはまず諦めて下さい。黙って座っていれば料理が出てくると考えていると中国ではすぐにアウト。「女のくせに〜、女だから〜」など言うと、中国では痛い目に合いますよ。

私は結婚前に「黙って俺に付いて来い」と夫に言われたら、多分結婚しなかったと思います。なんだか女性をバカにしていると思うからです。しかし、今、夫に言われたら「喜んでついて行きます」と感動して答え、逆に愛を感じます。もしかして、今の私、日本の色に染められたかも!

# INFORMATION

## 医療ハンドブック

日本に暮らす外国人の数は年々増加しており、大分県でも10,000人をこえる外国人が暮らしています。ことばの壁や生活習慣の違いなど、乗り越えなければならない課題はいくつかありますが、それらの解決策のひとつとして、外国人医療ハンドブックを作成しました。

日常生活上の問題のなかでも、医療や健康に関することはとても大切です。しかし、日本語を母語としない皆さんにとって、難しいと感じることも多いのではないのでしょうか。この冊子では、日常の健康を支える制度や、病院のかかり方、妊娠や出産など、多くの人に必要情報をコンパクトにまとめています。また、大分県の誇る温泉についても健康との関連性を含めて紹介しています。

外国人の皆さんの生活向上に役立てていただければ幸いです。

この冊子は、おおいた国際交流プラザのホームページからダウンロードできます。

<http://www.oitaplaza.jp/japanese/>

下記の言語で作成していますので、ぜひご利用ください。

- 医療ハンドブック (英語)
- 医療ハンドブック (中国語)
- 医療ハンドブック (韓国・朝鮮語)
- 医療ハンドブック (タガログ語)
- 医療ハンドブック (やさしい日本語)
- 携帯用情報カード (5言語分)



## イベントの報告 『おおいた国際交流フェア』

異文化への関心を高め、国際意識を深め、国際的団体の宣伝や連携等を促進し、フェアートレードのことを知らせること等を目的にした「おおいた国際交流フェア」を11月23日(水)に開催しました。

ブースエリアでは、在住外国人支援、留学生支援、海外ボランティア活動、日本語教育、外国語教育等々、国際交流、国際協力、多文化共生に携わる団体が出展し、ステージエリ

アでは、留学生や一般県民等の団体が、日本、韓国、中国の伝統文化を紹介しました。

また、7か月間、18カ国の世界一周旅行をした大分に帰ってきた若い夫婦による報告会、太鼓の体験がめったにできない外国人に向けての太鼓ワークショップも併せて行いました。

今回は、このフェアのために募集したボランティアさんたちが陰でがんばってくれたことを追記していきます。



おおいた国際交流プラザ

## La Estación 2012 vol. 35

発行日 平成24年1月27日(寄数月末発行予定)  
 編集・発行 (財)大分県文化スポーツ振興財団 国際交流課  
 〒870-0029 大分市高砂町2番33号  
 iichiko総合文化センター地下1階 iichiko Space Be内  
 開館時間: 9:30~19:00  
 閉館日: 日曜日・祝日及び第2・4月曜日とその週の土曜日※ただし閉館日が祝祭日の場合はその翌日  
 TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052  
 E-mail: in@emo.or.jp Twitter: @oitaplaza  
 URL: <http://www.oitaplaza.jp/>

# おおいた国際交流プラザ OITA INTERNATIONAL PLAZA

# La Estación

vol. 35  
2012

ラ・エスタシオン  
スペイン語で、局や駅の意。当誌が県内の国際交流・協力情報の発信地として、広く親しんでいただけるようお願いを込めてつけました。

寄稿 国際交流は何のためにするのか  
 第5回「国際交流と社会の記憶  
 —「歴史修正主義」現象について」……1-2  
 自治体の紹介 大分市……3  
 団体の紹介 大分日独協会……3  
 国際的に活躍している人々の紹介……4  
 アンブル氏

JICAデスク大分からのお知らせ「人生の転機」……4

Event Calendar……5-6

私たちの声を聞いてください!……7

崔 文玉氏

Information……7

イベントの報告……7

(財)大分県文化スポーツ振興財団

## 第5回

# 「国際交流と社会の記憶」 —「歴史修正主義」現象について—

今年度は「国際交流は何のために行うのか」と題して、様々な視点から国際交流の意義と目標について解説していただきます。寄稿者は、国際関係、歴史学、在住外国人支援等、色々な分野の方をお願いしています。今回は、東京外国語大学教授の岩崎稔氏の寄稿です。

### ▶ 集会的記憶ということ

「このところずっと記憶の研究をしています」——自己紹介のときにこう答えると、ときどき怪訝な表情が返ってくる場合があります。渡した名刺には、哲学や社会思想が専門だと書いてあるからです。そこで、「記憶は哲学や政治思想に関係があるのですか。心理学とか、脳の科学のことじゃないんですか」と聞き返されたりします。わたしが取り組んでいるのは、学問の言葉を使うなら「集会的記憶」collective memoryという問題です。わたしたちは具体的にある時代のなかを生きて、個人のスケールでも、それを越えたスケールでも、実にさまざまな記憶を持っています。そして、それは一般に思いこまれているのとは違って、けっして単純に私的なものではありません。わたしたちは記憶を複雑なあり方で無数の他者と共有しあっています。それも、直接体験したことの痕跡としてではなく、他者とのコミュニケーションを通じて、学校教育を介して、そして文化的な表現を受容することによって、それと知らないうちに、わたしたちは記憶を「集会的」=社会的に作り上げ、書き直し、継承してきているのです。身近な例をとるなら、昨年起こった東日本大震災とそれに続く原発人災でも、ひとによってその直接の経験はさまざまなのですが、それにも関わらず、この出来事の記憶が国内外の多くのひとたちによって作りあげられ、書き直され、補足され続けていることは、実感としても分かるでしょう。この集会的記憶という問題は、国際交流の現場にとってもとても重要なものではないでしょうか。というのも、さしあたって大きく異なった文脈のなかで作られるさまざまな集会的記憶同士の出会いと融合が、つねにそこで起こるからです。

### ▶ 自己確証の機能と自己相対化の機能

こうした集会的記憶、つまり社会の記憶には不思議な特性があります。この記憶のメカニズムには、ふたつの異なった機能が認められるからです。一方で記憶は、それを持っているひとに、自分のアイデンティティを確認し強化する感じを与える効果をもたらします。自分が達成してきたことや自己肯定できる内容の記憶によって、自分が自分であるという強い感じをもつわけです。しかしその他方で、記憶の到来が、わたしたちが自分を確証して満足するという姿勢をこえて、むしろそれを疑問視したり、ゆるがしたりする機能をもつことがあります。自分ではコントロールが効かないように見える記憶が、まるでわたしに突然降りかかってくるかのように、あたりまえと思っているわたしたちの価値観を相対化したり、見直したりするきっかけを与えてくれるのです。ときにはそれは、わたしたちが個人としても社会としても、自覚しないままに記憶の外に抑圧していた記憶が思いがけず再帰するという現象を含みます。前者の記憶の機能は、自己確証の感覚を与えてくれるのですが、後者の記憶の機能は、そうした自己確証を見直し、自己反省を促してくれる効果を持っています。このふたつのあり方は、どちらが欠けた場合でも、わたしたち自身や社会が自分と折り合いがつかなくなってしまう。前者の機能ばかりであれば、自分に快適な記憶、独善的な記憶ばかりを繰り返す自己中心的なナルシストになってしまいます。しかし、後者ばかりでは、わたしたちは自分をひとつにまとめて責任ある態度をとることができなくなります。文化的な他者との関係や歴史認識をめぐる問題は、多くの場合、集会的記憶のこのふたつの機能から整理することができます。

### ▶ 「歴史修正主義」という現象

日本の社会は、この二十年余の間に、とくに歴史認識についてかなり騒がしい論争を経験してきました。そこで問われていたのは、実は集会的記憶です。こうした事情は日本だけのことではありません。よく戦争責任の問題をめぐる日本と比較されるドイツと対比してみると、そこにもある程度似た事情があります。つまり、ドイツにおいても1986年に「ドイツ歴史家論争」と呼ばれる歴史認識についての大論争がありました。そこでも、結局のところ、ナチズムとそれを生み出したドイツ社会の加害責任やそれに対する反省を、これからどのように継承して、それをよりよい未来像に繋げるべきか、ということが論争の焦点でした。（もっとも過去に対する向き合い方は、安易なステロタイプ化に注意したとしても、ドイツと日本とでは、やはり基本姿勢において大きな水準の違いがあることは否定できません。）ある社会が、自分たちの歴史のなかでやましく思ったり、責任を感じなくてはならない出来事について、それをなかったことにしてしまったり、責められる筋合いはないと主張したりすることは、かなり頻繁に認められる傾向です。こうした自分たちの社会にとって都合の悪い出来事をなかったことにしてしまったり、思い出すときには自己陶醉できるようなものだけにしておこうとする姿勢は、「歴史修正主義」と呼ばれています。1990年代以後の日本の社会で起こった歴史認識に関する現象は、その典型的な事例でした。これが、国際社会において日本の開放度を疑われる原因となり、とくにアジアの隣人たちとの交際交流にとって大きな障害となりました。「歴史修正主義」の主張は、日本人のアイデンティティを強く打ち出し、「日本人としての自分」が快適に自己確認できるような歴史叙述だけを欲望し、それを揺るがしかねない否定的な出来事をなかったことにしてしまう反応です。これが出てきたのは、グローバル化の進展や戦後社会の構造変化に対する不安を背景にしていたと言ってもいいでしょう。さきほどあげた集会的記憶の二つの機能について言うなら、ただ前者の集会的記憶の機能だけをひたすら強化しようとしただけのことでした。都合の悪いこと、痛みを伴う過去との向き合い方を恐れて、自分たちに快適な物語だけに安住する姿勢は、たぶん国際交流の現場でも、他者と向き合う能力を委縮させ、ひとりよがりになってしまう可能性があります。残念なことに、現に「歴史修正主義」の主張のなかからは、とくに都市部で、アジア系の外国人に対する非常に攻撃的で排他的なヘイトスピーチをする若者たちのグループが出てくるようになってしまいました。いまだごく例外的な現象とはいえ、これらには、警戒心を払っておかなくてはならないでしょう。

### ▶ グローバルなメモリーの時代

すでに集会的記憶を国民的記憶にしばりつけられる時代は終わっています。日々の現実としてグローバル化がますます進展しているなかでは、集会的記憶はつねに同時にグローバルメモリーであらざるをえません。いや、そもそも、近代を通してナショナルメモリーとして出来上がっていたように見えたものも、もっと複雑なものであり、どんなにナショナルに見えるものの背後にも、もっとずっと多様な交わりと多様化の現実が存在していたのだ、という読み替えも始まっています。生身の人間たちの出会いは、齟齬や誤解も含めて、ダイナミックで多様なものです。交流の経験、違うものたちが共存し共生するドラマの蓄積こそグローバルメモリーの時代に相応しく、またわたしたちの文化的な包容力を拡大してくれるはずだ、と思っています。

#### Profile

岩崎 稔 (いわさき みのる)

1956年、名古屋市生まれ、東京外国語大学総合国際学研究院・教授、東京外国語大学出版会編集長、哲学／政治思想専攻

## 大分市×オースチン市の音楽交流

姉妹都市 アメリカ合衆国テキサス州オースチン市 大分市企画部文化国際課国際化推進室

大分市はポルトガル・アベイロ市、中国・武漢市、そしてアメリカ合衆国・オースチン市と姉妹・友好都市を結び、さまざまな交流を行っています。今回はその中からオースチン市との音楽交流についてご紹介します。

オースチン市はアメリカ合衆国テキサス州の州都で、平成2年10月に大分市と姉妹都市を提携しました。音楽産業が盛んな町であり、世界最大級の音楽フェスティバル「South×Southwest(サウス・バイ・サウスウエスト)《以下「SXSW」と省略》」の開催地で、数多くの音楽家を輩出していることから「世界のライブ・ミュージックの中心地」とも称されています。

ところで、大分市が「日本における西洋音楽発祥の地」であることをご存知ですか。大分市では、この歴史的特性を活かした新たな魅力づくりの一環として平成20年から「おおいた夢色音楽祭」を開催しています。音楽祭期間中には、200組を超えるミュージシャンが市内中心部に設置された多くのストリートステージにてパフォーマンスを繰り広げ、道行く人が心もよむような「音楽のあふれるまち」が出現します。その音楽祭に、一昨年から姉妹都市・オースチン市のミュージシャンが国境を越えて参加し、素晴らしい演奏を披露してくれています。

オースチン市のミュージシャンが夢色音楽祭に出演するきっかけとなったのは、一昨年に姉妹都市提携20周年記念事業の一環として、SXSWに出演経験のあるミュージシャンを「おおいた夢色音楽祭2010」に招待したことでした。来市し

た3名のミュージシャンは、大分市民に本場のカントリーやブルースを届けてくれました。また、昨年3月には、「おおいた夢色音楽祭実行委員会」が渡米し、SXSWを視察してたくさんの方々の運営ノウハウや音楽祭発展のヒントを持ち帰っています。

昨年の「おおいた夢色音楽祭2011」にもオースチン市のミュージシャンが出演してくれたほか、この3月には「おおいた夢色音楽祭2011シンガーソングライターズ・コンテスト」で優秀賞に輝いた大分市のミュージシャン2名が、音楽大使としてオースチン市で音楽演奏を披露する予定です。

今後の展開として、「おおいた夢色音楽祭」に出演するミュージシャンをオースチン市に定期的に派遣する仕組みを作るなど、両市の音楽交流は多くの可能性を秘めています。今年の10月に開催される「おおいた夢色音楽祭2012」にもオースチン市のミュージシャンが音楽大使として駆けつけてくれる予定です。皆さん、どうぞご期待ください。



おおいた夢色音楽祭出演者



おおいた夢色音楽祭

## 大分の国際交流団体の紹介

### 大分日独協会

大分日独協会  
 ■〒870-0937 大分市南津留17番24号 NPO法人denk-pause内  
 ■TEL 097(547)8360 ■FAX 097(547)8361  
 ■MAIL caromusik@sepia.plala.or.jp  
 ■http://blog.goo.ne.jp/oita-deutsch/

大分日独協会は、1961年に創立されました。会員数は約50名です。年に1度の総会と懇親会と2ヶ月に1度の例会を開催しています。また、18年にも及ぶドイツ語教室は、初級と中級クラスがあり、それぞれ週に1回、幅広い年齢層が大学の先生から学んでいます。ちなみにEJU圏で一番話されている言語はドイツ語なのです。

ドイツと言えば何を思い出しますか?スポーツだと最初に思い浮かぶのはサッカーでしょう。日本のJリーグに相当するブンデス・リーガでは、近年、日本人サッカー選手の活躍が目立っています。ドルトムントの香川選手、ボルフスブルクの長谷部選手、シュトゥットガルトの岡崎選手などです。

シュトゥットガルトといえば、ベンツとボルシェの本社があります。それぞれ自動車博物館があり、各社(車)の歴史を知ることができます。このほか、フォルクス・ワーゲンやオベルもドイツ車です。

また、ドイツはクラシック音楽大国でもあります。小さな町から大都市までオペラハウスやコンサートホールがあり、音楽祭なども各地で開催されています。

一昨年には、ドイツ語教室受講者だったSさんがピアノを学ぶため、高校卒業後にドイツの音楽大学に留学しました。実技はも

ちろん、語学の厳しい試験もある中、見事な合格でした。バレエや建築を学ぶためにドイツ語教室を受講し、留学した人もいます。

ドイツでは芸術文化は「教育」の一部だとして行政が手厚く援助しています。「ドクメンタ」という大きな現代美術展は5年に1度、ヘッセン州の小さな古都カッセルで開催されています。今年2012年は開催年です。昨年開催されたヴェネツィア・ビエンナーレに匹敵する美術展です。ベルリンやミュンヘンにも素晴らしい美術館がたくさんあります。

このほかのドイツ製品も日本では人気です。「ケルヒャー」(高压洗浄機)、「フィスラー」(鍋)などお使いになり、身近なところでドイツと関わっている方もいらっしゃるのではないでしょうか?

ドイツはとても興味深い国です。例会やドイツ語教室へ一度足をお運びください。



大分日独協会主催講演会の様子

## 人物の紹介 ~国際的に活躍している人々の紹介~

アンブルさんはフランス、ブール・レ・ヴァレンスに生まれ、リヨン大学に通い、日本文学や経済学等を勉強し、2006年に島根大学で1年間留学を行いました。2008年に卒業した後、JETプログラムで来日し、大分県立芸術文化短期大学で国際交流員としてフランス語を教えています。「フランス語を教えるのはとても好き。また、フランス語を教えるだけでなく、フランスへの1ヶ月留学事業等、いろいろな活動ができて楽しいです。」とアンブルさん。

フランスへの1ヶ月留学事業というのは、アンブルさんの企画で2011年に初めて行いました。大学生と一般市民とともにフランスのシャンペリー市に行き、そこで1ヶ月間フランス語を学びながらフランス生活を体験する事業です。2012年にも行う予定です。

また、JETプログラムの国際交流員として、大分県内の国際交流に力を入れています。2008年及び2009年に「竹田国際映画祭」に参加して、フランス映画を紹介。2009年竹田サマー・スクールでフランス語についてセミナーを開催。また、スペイン語もペラペラなのでスペイン語会話講座も開催しました。

2008年~2010年まで、iichiko総合文化センターでフランス語教室を開催し、2010年多文化理解講座として、フランス文化についての講義を行いました。ま

た、おおいた国際交流フェアに参加し、フランス・ブースを出展するなど、おおいた国際交流プラザとの協力も活発です。

なぜ日本に興味を持って、日本語を勉強したかという、「高校のときから日本語を勉強し、2週間奈良でホームステイを行い、日本がとても好きになった」とのこと。大分について尋ねると「都会より田舎の方が好きで大分はとても暮らしやすい」と言います。東北地方以外に日本のあちこちに行ったことがあり、特に大分県、島根県、奈良県は大好きだそうです。

日本で生活して、稲刈り、田植え、押し花、茶の湯、和菓子作り等、日本文化を体験してきました。大分県立芸術文化短期大学での仕事は2013年まで続ける予定で、それまでは、もっと日本文化を体験し、香港や台湾等のアジアへも海外旅行してみたいそうです。アンブルさん、楽しんでください。

取材：グリュツマハー・ゼンケ

今回は大分県立芸術文化短期大学で国際交流員として勤め、大分県でフランス文化を広げるアンブルさんをご紹介します。



写真中央がアンブルさん



写真右がアンブルさん

## JICA デスク大分からのお知らせ

今回の「JICAデスク大分からのお知らせ」では、「昭和」の時代に青年海外協力隊に挑戦し、1987年から2年間西サモア(現:サモア独立国)に派遣された山崎義行さんの体験談「人生の転機」をお届けします。世界各地で豊富なボランティア経験を持つ山崎さんは現在、毎月第2水曜日にiichiko総合文化センター1階で実施されている「協力隊NAVI」で相談役を務めています。

### 「人生の転機」

人生の大きな転機は「青年海外協力隊」への参加だった。今思えば趣味のアマチュア無線で初めて海外と交信したときのあの興奮が残っていたのかも知れない。高校を卒業、地元で電電公社(現NTT)に入社しそのまま敷かれたレールの上で人生は終わるものだと思っていた。しかし35歳のある日、NTTの社内報で「協力隊」の記事を見て「挑戦もせずに終わるより受けて見よう」と受験。何を間違ったのか合格してしまった。家族の大反対を押し切り会社を退職、2年間の人生の旅に出た。海外旅行は元よりパスポートなどとは無縁の国東の田舎人。海外デビューは青い海と太陽が眩しい南太平洋の島国「サモア」だ。現地で官公庁の電話交換機のメンテナンスに従事。高校時代一番の苦手だった英語を駆使?四苦八苦の毎日だった。だがこの2年間で海外に縁ができた。帰国後NTTに復帰したが40代になってNTTインターナショナル(株)へ出向、東京をベースに途上国へのODAの調査などで

十数ヶ国を廻る事になる。50歳の時NTTの再編で居場所がなくなり早期退職。シニア海外ボランティアに参加し中東ヨルダンの職業訓練学校で2年間通信技術を指導した。その後は国際NPO、海外専門の派遣会社などに所属し戦争直後のイラク、アフガニスタンそしてパキスタンや台湾などで活動し2年前に大分に帰省した。のんびりゆっくりだった35歳までと波乱万丈のその後。そのきっかけが「青年海外協力隊」だったことは言うまでもないがこの決断が良かったのか悪かったのかこの後の人生での確認作業がまだまだ楽しみな60歳だ。



1987年 サモア国の手動電話交換機(立っているのが36歳の山崎さん)



国際協力推進員の川崎(かわさき)までいつでもどうぞ  
 〒870-0029 大分市高砂町2-33 iichiko 総合文化センター地下1階 国際交流プラザ内  
 TEL: 097-533-4021 FAX: 097-533-4052 E-mail: jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp



FEB

2 ▶▶▶ MAR 3

## プラザのカウンセリング・各相談室のご案内

### カウンセリング

場所：iichiko総合文化センター B1F おおいた国際交流プラザ  
お問合せ先：TEL：097-533-4021 FAX：097-533-4052  
E-mail：in@emo.or.jp

### 中国語無料相談

毎週火曜日と木曜日  
時間：火曜日：13：00～16：00  
木曜日：10：00～13：00

会場：国際交流プラザ

申し込み：不要

相談員：児玉 文玉（こだま うんゆう）

相談料：無料

※県内在住中国語圏の方のための相談室です。

### タガログ語無料相談

毎月第1土曜日と第3火曜日  
時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

申し込み：不要 相談料：無料

相談員：吉武ロドラ（大分県フィリピン友好協会 会長）

※悩み事を抱えている方、タガログ語で気兼ねなく話したい方はプラザにお越しください。

### 入国・在留国籍手続無料相談

毎月第1日曜日  
主催：ライフサポート大分

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

相談料：無料 予約：必要

対応言語：日本語・英語

※主として法律相談ですが、それ以外の内容でもお困りの場合はご来館ください。また、相談内容が外にもれることはありません。お知り合いの外国籍の方がトラブルや悩みを抱えている場合には、その方にぜひお伝えください。外国の方とのかわりの中で悩みの方の相談も受け付けます。

### 在住外国人のための無料相談

毎月第3水曜日  
時間：13：00～16：00 会場：国際交流プラザ

申し込み：不要

※ただし、日本語、英語以外による相談は、通訳手配のため、

2日前までに要予約。

相談員：伊藤精（行政書士）

相談料：無料

※県内在住外国人のための相談室です。

## FEB

### 4日（土）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

### 5日（日）入国・在留国籍手続無料相談（毎月第1日曜日）

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

主催：ライフサポート大分

### 10日（金）留学生による国際交流教室

#### 「アメリカ合衆国・テキサス州」

時間：19：00～21：00

場所：大分国際交流会館

※要予約

主催：別府市役所文化国際課

TEL：0977-21-6133

### 11日（土）日本語deトーク

国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何だかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか?

テーマ：「旅行」

時間：13：00～14：30

場所：iichiko総合文化センター B1F【国際交流プラザ】

定員：10名（先着順）※**予約必要** 参加費：無料

TEL：097-533-4021

E-mail：wada@emo.or.jp

### 15日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

### 19日（日）国際理解講座～映画編（オーストラリア）

内容：映画を通じて国際理解を深める講座です。今回の映画は1931年のオーストラリアを舞台とした「裸足の1500マイル」です。この時代、先住民アボリジニの混血児を家族から隔離し、白人社会に適応させようとする隔離・同化政策がとられていました。寄宿舎に収容された子どもがウサギよけのフェンスだけを頼りに2400km離れた母の元に帰ろうとしますが……。ぜひご覧ください。

時間：14：00～16：30

場所：iichiko総合文化センター B1F【映像小ホール】

講師：ニコール・フリン

予約：不要 受講料：無料

TEL：097-533-4021

E-mail：wada@emo.or.jp

### 21日（火）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

### 25日（土）外国文化理解講座 ～フランス～

内容：予約不要・受講料無料で、どなたでも気軽に外国の文化を学べる外国文化理解講座。今年度は、中国、韓国、フランスの講座を開催します。大分にいながらにして、それぞれの国の文化に触れてみませんか？各テーマに関連したワンフレーズレッスンなどもあり、外国の文化と言語を学びながら、一緒に国際交流をしましょう!!

時間：14：30～16：00

場所：iichiko総合文化センター B1F【映像小ホール】

講師：アンプル・テスニエ

予約：不要 受講料：無料

TEL：097-533-4021

E-mail：in@emo.or.jp

## MAR

### 3日（土）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

### 4日（日）入国・在留国籍手続無料相談（毎月第1日曜日）

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

主催：ライフサポート大分

### 10日（土）日本語deトーク

国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何だかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか?

テーマ：入学式と卒業式

時間：13：00～14：30

場所：iichiko総合文化センター B1F【国際交流プラザ】

定員：10名（先着順）※**予約必要** 参加費：無料

TEL：097-533-4021

E-mail：wada@emo.or.jp

### 21日（水）タガログ語無料相談

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

### 21日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）

時間：13：00～16：00

会場：国際交流プラザ

### 23日（金）留学生による国際交流教室「シンガポール共和国」

時間：19：00～21：00

場所：大分国際交流会館

※要予約

主催：別府市役所文化国際課

TEL：0977-21-6133

## 異文化教室

### 外国人向け料理教室「LUNCH WITH US?」

別府市では、市内在住、留学生のご家族、外国人家族（ご主人、若しくは奥様が外国人であるご家族も含む）等を対象に、簡単な家庭料理サークルを開催します。美味しいお料理を囲んで、アットホームな雰囲気の中で、楽しくおしゃべりしませんか？

月日：●2月24日（金）●3月23日（金）

時間：11：00～14：00

場所：北部地区公民館分館なでしこ

※要予約、参加費 500円

主催：別府市役所文化国際課

TEL：0977-21-6133

E-mail：int-ma@city.beppu.oita.jp

### 日本人向け料理教室「地域交流国際料理クラブ」

月日：2月17日（金）「トルコ共和国」

時間：11：00～14：00

場所：北部地区公民館分館なでしこ 調理室

※要予約 参加費 500円

主催：別府市役所文化国際課

TEL：0977-21-6133

E-mail：int-ma@city.beppu.oita.jp

### 留学生と英語でクッキング

月日：●2月18日（土）10：00～13：00

シンガポール料理

●3月10日（土）10：00～12：30

国籍未定

場所：大分市コンバルホール調理室

定員：各20名

料金：1500円（食材費込）※学生割引あり

持ってくる物：エプロン

予約先：大学コンソーシアムおおいた

電話番号：0977-73-9300

※事前予約必要・先着順、定員になり次第締め切ります。

お申し込みの際は、「ご希望の日時、お名前、人数、

お電話番号」をご連絡ください。

### 「留学生と英語でクッキング」とは?

大分県内の留学生を講師として招き、毎月異なるテーマで世界各国の料理を作る教室です。世界の料理を身近にある食材を使って作りながら、英会話、国際交流、お友達作りもできる盛りだくさんな楽しい内容の料理教室です。料理の説明やレシピはすべて英語で行いますが、参加者の英語のレベルは特に問いません。必要な場合は日本語での通訳も行います。少人数制のアットホームな雰囲気のクラスですので初めての方も大歓迎です。また、食事の後は留学生によるミニ国際理解教室も行います。会員制ではありませんので好きな時にご応募いただき参加できます。料金は食材費程度です。どなた様もお気軽にご参加ください。

詳細は大学コンソーシアムおおいたまで直接ご連絡ください。

NPO法人大学コンソーシアムおおいた

TEL：0977-73-9300

HP：www.ucon-oita.jp

